

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		田原市児童発達支援センター		公表日		令和8年 3月 23日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・行事で利用人数が多い時は、療育室を追加しスペースの確保に努めた。 ・場面に応じてパーティションの使用や配置を変えて、物理的に構造化を図っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・入ってはいけない場所や開けてはいけない場所など、見てわかる表示で示している。	・玄関や教室の入り口、トイレ等にわずかな段差があるため、バリアフリー化を進めていく必要があります。 ・カーポートの設置などは、できるところから少しずつ改善を図っていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動に合わせてパーティションで部屋を区切ったり、畳を用意してリラックスできる環境になっている。 ・室内にジョイントマットを敷き、転倒しても危険がないようにした。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・クールダウンできる場所や部屋があり、状況に応じて使用できるようになっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員会議等で職員の意見を聞き、課題がみられた場合は改善方法を検討している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者による外部評価は行っておりません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・様々な研修に参加できるようにし、職員のスキルアップに繋げている。	・職員が段階的に学習し、スキルアップできるように、幅広い分野の研修を受講できるようにしていきます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・支援会議等、子どもの支援に関わる職員が参加し、保護者との話を基に意見を出し合っ て作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個別支援会議や職員間など、その都度現状の把握と今後に向けて密に話をしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・週に1回、チームカンファレンスなどで活動の内容を見直し、様々な遊びを取り入れている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・利用児童の発達等に合わせ、固定化しないよう工夫している。 ・午後も「ひるのあそび」を取り入れ、遊びが固定化しないよう、週替わりで遊びを変えている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			・療育が始まる前に子どもの様子や変更した支援方法等、職員同士で情報共有するようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			・計画に基づいた活動記録表を記録している。それによって、支援者が行った支援に対しての子どもの様子を見直すことができている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			・個別支援計画の情報共有や互いの施設をき来をし、児童の様子を共有している。また、児童だけでなく保護者への支援方法についても共有し共通理解を図っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			・連絡会等では連携を行っておりますが、センターとして地域全体の支援の質の向上をより充実させていくことが課題になっています。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			・専門分野によっては外部研修の機会に偏りがありますので改善していきます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・並行通園を行っていないお子さんについては、園庭開放への参加をお知らせしている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・機会の確保や情報提供は行いましたが、利用者が参加しやすい工夫を行うことが必要です。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			・保護者交流会やリフレッシュタイム等、子どもと離れて保護者同士で話ができる時間を設け、それによって悩みや聞きたいことについて、保護者同士でもシェアし合える良い機会となっている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・行事に地域住民を招待することへは様々な課題と配慮が必要だと考えるが、見学の申し込みに柔軟に応じたり、活動報告や協力体制をお願いするなど、機会に触れコミュニケーションを図っている。	・今後、地域に開かれた事業運営ができないかどうか引き続き検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPは、定期的に見直しを行っている。 ・毎月、様々な場面を想定した訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・アセスメント時に確認を行い、必要に応じて医師の指示書等を提出してもらっている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・配慮すべき食物アレルギーのある利用者はいない。利用開始前にアセスメントシートや保護者への口頭の質問で確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・年度初めに第1避難場所の他、第2避難場所等の説明をし周知している。	・事業所のこどもの安全を確保するための計画について再度周知する機会を設けていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・4カ月に1回、振り返りと同時に再発防止に向けて検討を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・月に1回は研修を行い、虐待防止の手引きの読み合わせ、ケース検討等を通して、虐待防止に努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			